

地域とともにあるチーム学校の実現

岡山教育事務所 所長

竹 本 悟 修



めざす学校像の実現に向けて、地域資源（人・もの・こと・情報等）を生かし、学校内外の様々な連携・協働関係により、地域とともにある学校づくりが県内各地で進められている。これまでの開かれた学校を一步進めて、地域とともにある学校では、地域との目的の共有と効果的な組織マネジメントにより、教育活動をより豊かなものとするだけでなく、地域の方をチーム学校のメンバーに加えることで、一段と組織力を強化し、活動内容や役割分担を見直し、教職員の働き方改革を推進していく上でも、とても有効な方法と考える。

この背景には、昨年三月の学習指導要領改訂がある。社会に開かれた教育課程を編成し、主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、教育活動を通じた地域への貢献も意図している。同時期に社会教育法も改正され、市町村教育委員会の事務として、地域住民が学校と協働して行う、地域学校協働活動を充実していくという内容が新たに規定されている。

八月の終わりに、「地域における子どもの安全安心」をテーマとした地域学校協働でのワークショップを参観する機会を得た。豪雨災

害や地震でのブロック塀の崩壊等、子どもを取り巻く環境の大きな変化に対応し、どのような教育活動を展開していくか考えていく流れであった。

約一時間半程の限られた時間の中で、まず、「子どもの安全安心な未来を考える」という大きな方向性を共有する。次に、教職員・保護者・地域住民（民生委員、主任児童委員他）で、協働と効率化の視点から取り組む内容を考え、これまでの役割分担を大胆に見直していく。子どもにとって効果があるか、チーム学校として無理なく実施できるか吟味し、実現に向けて具現化していく。この一連のサイクルそのものが、地域とともにあるチーム学校の姿であると感じた。話し合いを終えた後の、出席者の笑顔がとても印象的であった。

地域とともにあるチーム学校の姿は、一つに限定されるものではなく、地域資源を生かすことにより可能性は広がっていく。子どもたちのために協働していくチーム学校の取組を、これからも県教育委員会として、学校教育と社会教育の両面から積極的に支援していきたい。